

大正区の一フィールドワーク

2005(平成17)年
6月5日(日)9時30分~13時

内
案

久保三也子さん(大阪大空襲の体験を語る会)
こやまひとし
川口仁示さん(開西十学名著教壇)

主催 大阪国際平和センター(ピースオブオ

昌黎縣志

太平洋戦争末期の大阪市・大正区

1、人口の減少

	1944年（昭和19） 2月（人）	1945年（昭和20） 11月（人）
大阪市*	2,833,344	1,102,959
港区	220,877	8,682
浪速区	132,345	5,684
大正区	111,935	27,637

*国勢調査（1940年10月1日） 3,252,340人

2、東南海大地震

発生：1944年（昭和19）12月7日13時36分4秒4

被害：

	死者 (人)	重傷者 (人)	軽傷者 (人)	その他の 罹災者	全壊 (戸)	半壊 (戸)	床下浸水 (戸)	傾斜 (戸)
大阪府	7	25	110	—	316	1682	2149	2755
大正区	3	13	61	4183	53	784	2100	2700

3、金星丸事件

- ・発生：1945年（昭和20）1月11日11時28分頃
- ・場所：大阪市大正区今木町2丁目32番地 尼崎船渠株式会社第一工場沿岸木津川岸壁
- ・災害船舶：山下汽船株式会社所属 輸送船（新造船、海軍徵用船）金星丸（2200トン）

船長 若林秋雄 乗員 船員57人、海兵17人、計74人

・原因：「船内ニ着荷セラレタル爆雷（100挺）4発ヲ船内後尾爆雷庫ニ収納スペク爆雷ニ綱ヲ懸ケ曳引作業中突如爆発シタルモノノ如キナルモ 詳細不明」

・災害状況：「金星丸ハ大爆発ト同時ニ中央機関部及左舷ヲ大破シ後部ノ全部ニ浸水シ大傾斜ヲナス」

死者 27人（うち海軍兵士2人）

内訳 即死18人（うち就働中の国民学校高等科児童1人）

病院収容中死亡1人

病院収容後死亡8人

重傷者 31人（うち就働中の国民学校高等科児童1人）

軽傷者 156人（うち就働中の滋賀師範本科生4人、千里山中学3人、

国民学校高等科児童1人）

行方不明 12人（うち海軍兵士6人）

・遺体安置場所 千昌院

・重傷者収容先 丸田病院22人、串田病院5人、大野病院（西区）4人

・行方不明者ハ船底又ハ河底ニ没シ居ルモノト思科セラレ潜水不に依リ捜査ナリ

・新聞記事掲載禁止措置：直チニ本件ニ関スル部外発表ヲ行ハザルコト及新聞記事掲載禁止ノ取扱ヲ為セリ

（昭和20年1月12日付 大阪府知事から内務大臣宛「船舶爆発事故発生ニ関スル件」）

4、集団疎開学童焼死事件

・1945年1月29日夜 徳島県美馬郡貞光町 真光寺本堂

・南恩加島国民学校男子児童 16人焼死 16地蔵尊

5、大正区の空襲

*初期空襲（夜間の単機による通常爆弾投下、心理的効果をねらう）

・1月19日23時55分頃 日本鋸工所本社工場付近（千島町383）路上

爆弾 5個、全壊1

・2月2日4時46分頃 春木組の裏、村田商事産業（南恩加島町1-151）

爆弾 2個 半壊2

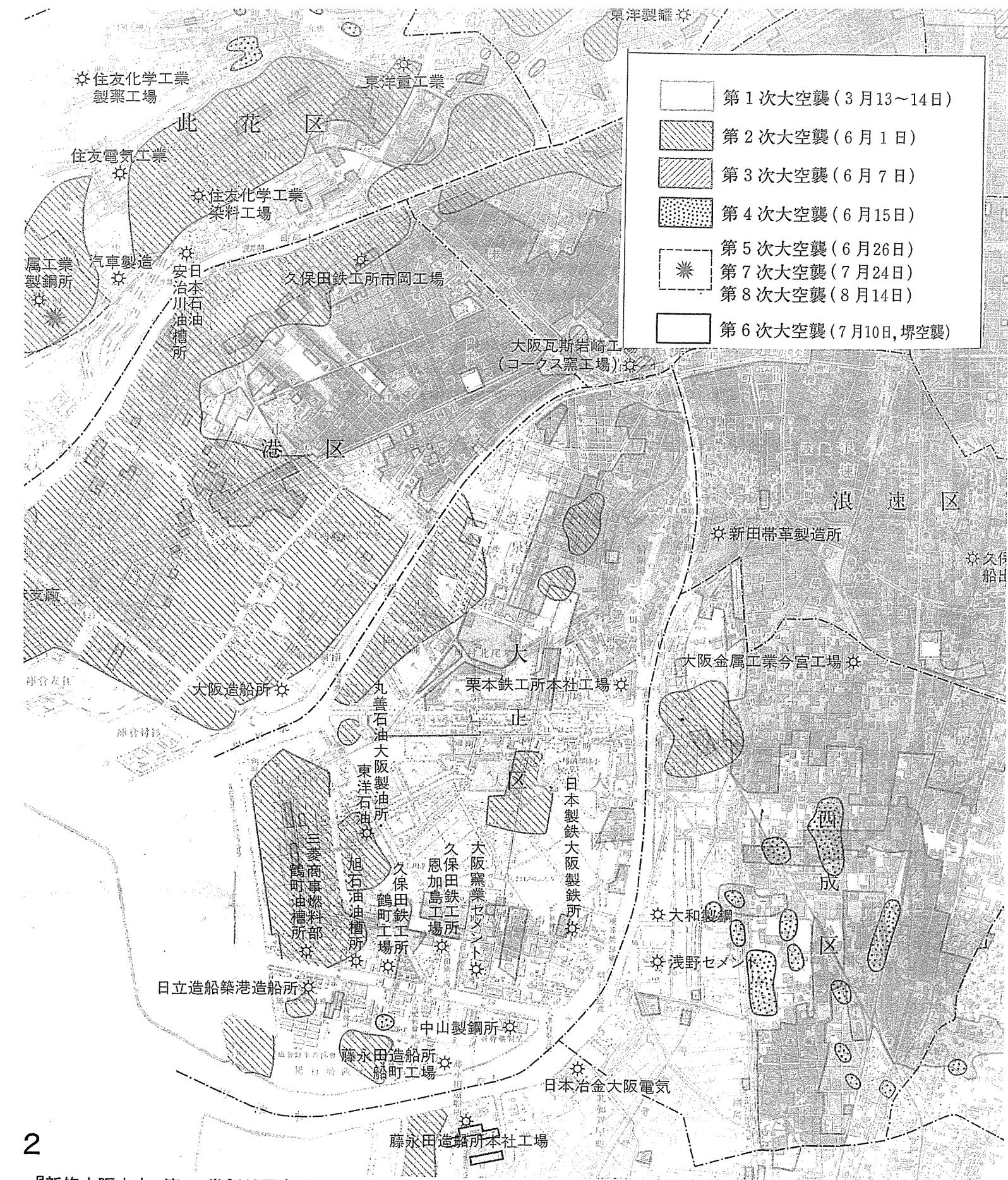
・2月19日2時55分頃 第一工業製薬工場、協和造船内間組朝鮮人飯場内

爆弾 2個 全壊6、半壊7、小破8

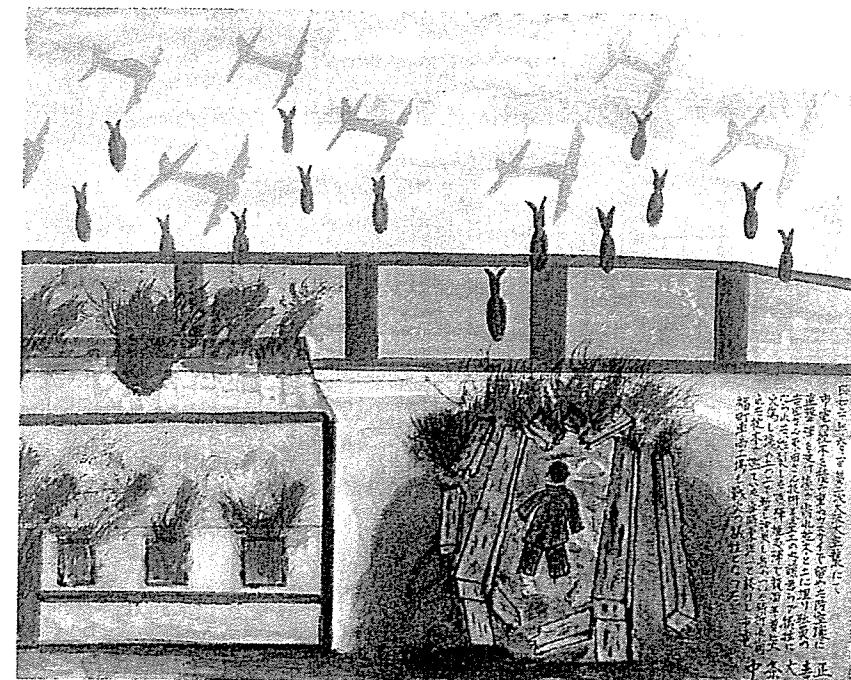
死者8人、重傷者1人、軽傷者3人

*大空襲（大阪大空襲8回のうち、大正区へ大きな被害を及ぼしたのは次の2回である）

s	目標	機数	爆弾	被害状況（大正区）					
				死者	重軽傷者	行方不明	罹災者	全壊（全壊）	半壊（半壊）
3・13～14	大阪市中心部	B29 274 ^挺	焼夷弾 1733 ^t	275人	1343人	102人	50000人	8667戸	117戸
		B29 458	焼夷弾 2789						
6・1	大阪市北部、西部	P51 27	機銃掃射	195	1414	69	19570	5747	94



▼焼夷爆弾が直撃 物凄い音とともに私は防空壕の上にほうり上げられました。壕を焼夷爆弾が直撃したのです。いったん失神した私でしたが気がつくと鉄かぶとや眼鏡は吹っとび顔や手に大火傷をしていました。壕の中では4人が死んでいました。——中条大喜正



▲大火傷の顔 防空壕に直撃弾を受け大火傷を負った私は鶴浜通りの海岸へ避難して来ました。女人に「鏡を借して欲しい」とお願いすると「あなたは鏡を見ると気絶なさる」と断わられました。それでも強いて鏡を借りて自分の顔を見ました。顔一面が黒紫色になり、2倍程にふくれ上がっていました。——中条大喜正

大火傷の顔

中条大喜正（当時二八歳）は、大阪市電気局（現在交通局）の東洋一を誇る福町車両工場（大正区）に勤めていた。六月一日の朝九時過ぎ、空襲警報のサイレンが鳴り響いた。次から次へとB29が投下する焼夷弾の雨、たちまち工場も事務所も炎の海になつた。

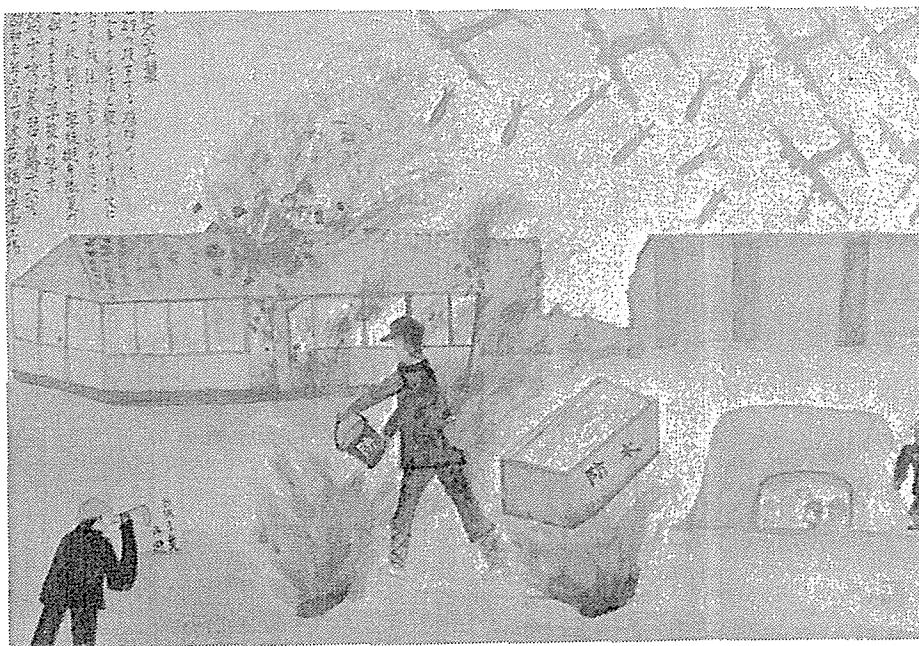
このとき、動員学徒の府立天王寺中学校（現在天王寺高校）三年四組の級長鈴木博美が、全身火だるまになりながら、炎上する事務所にバケツで水をかけているのを中条は見た。鈴木は火傷がもとで、翌二日夕方に息をひきとつた。自分の命をかえりみないで火を消そうとしていた少年の姿を、中条は忘れることができない。この鈴木のことは、あとで述べる。

中条たち三、四人は正門近くの防空壕を出た。鍛工場の横の倉庫の火を消しにいくためだつた。動員女学生三人ほどが「おかあちゃん」と泣きながら、中条たちが入つていた壕に向かうのとすれちがつた。

またもや、敵機が来襲した。中条たちは、工場の敷地の奥の方の防空壕にとびこんだ。ものすごい音とともに、中条は壕の上にほうりあげられた。壕を大型焼夷弾が直撃したのである。くずれた壕のなかで、同僚四人が死んだ。中条だけがどうしたわけか、真上にほうり出され、くずれた壕の土の上にうつぶせになつて失神していた。底なしの所へ落ちていく気がした。落ちていっても、落ちていつても底がない。きれいな、この世で見られない花園があつた。「お前、ここへ來たらあかん」、声がきこえて、中条はわれにかえつた。鉄かぶとも眼鏡も吹っ飛び、顔や手に大やれちがつた。

けどをしていた。

中条は鶴浜通の海岸へ向かつた。途中、鶴町の両側の家が燃えていた。路上に布団があり、その布団がうごめいていた。中条が布団をめくると、女性の顔が半分割れて、地面に血が吸いこまれていた。その女性の胸に小さな子どもがすがりついて、泣いていた。周囲は燃えている。このままでは燃け死んでしまう。中条は子どもをかかえて、鶴浜通の砂浜まで来た。



火だるまで消火の中学生 6月1日、大正区福町車両工場（絵 中条大喜正）

その子どもは生後一年と少しぐらいだつたろうか。男の子か、女の子かも中条にはわかつていない。よちよち歩きの子どもだつた。顔は砂と涙でくしゃくしゃだつた。中条は腰の手ぬぐいで顔をふいてやつた。砂浜の上に立たすと、につくり笑つた。「もう、お前にはお母さんがいないんやなあ」と、中条の顔に涙があふれた。その子どもを警防団員に渡した。

海岸には、だんだん避難者がふえてきた。浜の潮風が顔のやけどにしみて、ヒリヒリと痛い。女人に「鏡を貸して下さい」というと、「あなたはご自分の顔を見られたら氣絶なさる」と断られた。「氣絶しないからお願ひします」と強いて頼んで、小さな鏡を借りて自分の顔を見た。顔一面が黒紫色になり、二倍ほどにふくれあがつていた。

午後五時ごろになつて、やつと阿倍野橋の市民病院（現在市立大学病院）で治療を受け、ガーゼに白い薬をつけてもらつた。口と目だけあいた包帯姿で、天王寺駅から関西本線で王寺に向かう途中、なんども目がくらんだ。中条の住んでいた港区寿町（現在弁天五丁目）の家は三月の大空襲で焼け、彼は奈良県生駒郡平群村（現在平群町）から通勤していたのだった。

「先ぱいの思いをここに」

— 16 地蔵のモニュメント作成を『平和』の誓いに —

白川 洋二（大阪市立南恩加島小学校）

「16 地蔵尊」のモニュメント製作にかかわっての話をして欲しいという依頼を受けたとき、正直迷いました。私の話は、小学校の現場での取り組みに根ざすものであり、「15 年戦争研究会」という、研究組織で話す中身ではないと考えたからです。

しかし、熱心に勧められ、子どもたちの取り組みやその時にかかえた思いなどを聞いていただくことは、「16 地蔵」の物語をたくさんの方に知っていただく契機にもなるだろうと考え、お受けしました。

話をさせていただいて、私にとっての最も大きい収穫は、みなさんに長い話を熱心に聞いていただいたこと、そして植木さんからいただいた、事故の後の南恩加島国民学校の事故にかかる「始末書」のコピーでした。学校には当時の校長の「進退伺」の下書きしか残っておらず、いただいたコピーを見て思わず胸が熱くなりました。と言いますのも、16 人の「校葬」の次第が残っており、それを見ると、当時の大阪府知事や大阪市長も参加した盛大なものだったことが伺えます。新聞でも大きく報道され、児童代表の弔辞の原稿も残っていました。それらを見ますと、当時の社会情勢の中で 16 人の「校葬」が明らかな戦意高揚に利用されたことが読み取れます。

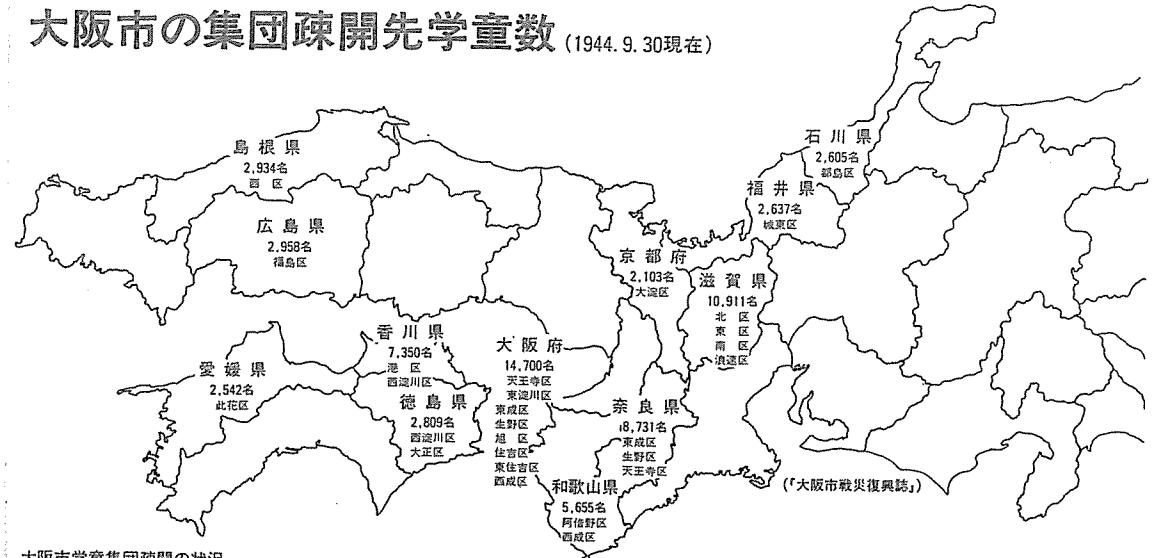
当時の校長はその後、辞職したと聞いておりましたし、職員たちも言いようのない悔しさ、苦悩を味わったであろうと思い至っていました。そこまで追い詰めた不条理なものに対して、このコピーを見て、改めて怒りがわいてきました。

「始末書」の中には、朝鮮民族ということがわかり、警察で苛酷な取り調べを受けたであろう「清子先生」の名前も書かれていました。

戦後 60 年、「16 地蔵尊」の 60 年忌。その年にこのコピーをいただいたことは、子どもたちとモニュメント製作に取り組んできた私にとって、当時の南恩加島の先輩職員たちの思いも自らの思いとして背負って行くべきだと、改めて思わされた瞬間でした。

研究に値しない中身であったであろうと今も悔いていますが、話をさせていただくことで子どもたちの取り組みを、再確認できた思いでした。ありがとうございました。

大阪市の集団疎開先学童数 (1944. 9. 30現在)



大阪市学童集団疎開の状況

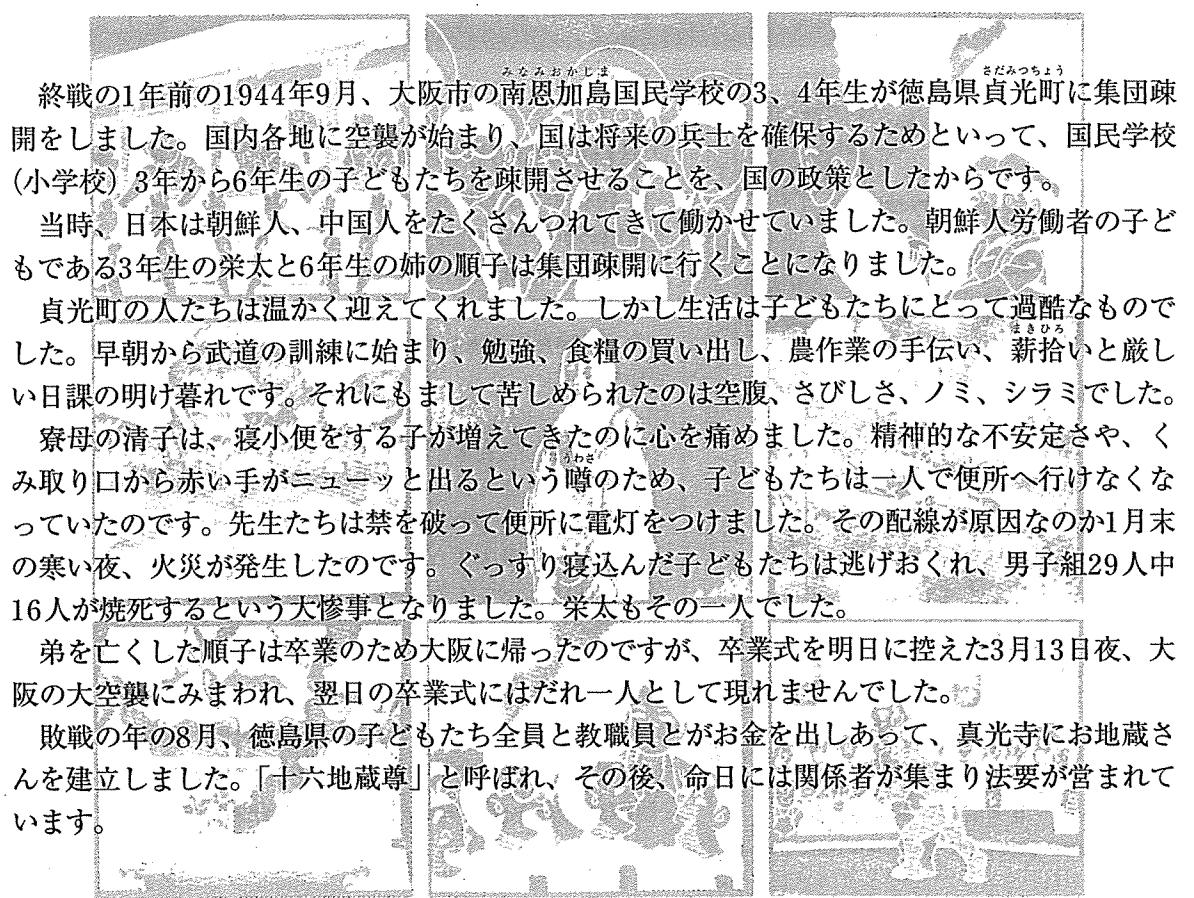
区	校数	寮舎数	学童数	派遣員数	寮母数	作業員数	一ヶ月以上在籍者数	死亡者数	被災被引取人の無い学童
北	13	86	2,428	105	103	112	—	—	25
都 島	7	44	2,113	74	82	72	1	—	21
福 島	10	88	3,027	117	128	113	60	1	—
北 花	11	66	2,740	97	110	91	5	1	14
東	11	57	2,335	88	105	84	2	—	9
西	14	81	3,020	121	128	125	8	—	2
港	20	130	4,904	168	191	166	9	1	13
大 正	12	60	2,719	90	110	92	19	17	4
天 王 寺	14	72	3,208	129	141	117	19	—	2
南	10	72	2,469	93	115	103	3	—	9
浪 速	16	87	3,279	117	144	125	6	—	25
大 湾	10	57	2,134	79	99	78	4	—	2

区	校数	寮舎数	学童数	派遣員数	寮母数	作業員数	一ヶ月以上在籍者数	死亡者数	被災被引取人の無い学童
西淀川	11	69	3,003	101	116	100	—	—	—
東淀川	16	89	3,114	121	120	111	2	—	—
東 成	10	59	2,819	115	124	116	14	—	1
生 野	11	74	4,446	156	182	144	19	2	1
旭	6	51	1,895	63	73	55	1	—	1
城 東	10	59	2,745	107	105	100	—	—	—
阿倍野	8	86	2,701	95	116	104	10	1	—
住 吉	11	78	3,055	99	127	107	—	—	3
東 住 吉	9	69	3,074	111	126	104	4	—	—
西 成	15	125	4,566	167	182	157	4	1	11
計	255	1,618	65,815	2,414	2,728	2,376	190	24	143

校舎～死亡者 1945年1月31日(大阪市戦災復興誌)
被災被引取人の無い学童 1945年10月3日(戦後大阪市教育史(1))

十六地蔵物語

あらすじ



終戦の1年前の1944年9月、大阪市の南恩加島国民学校の3、4年生が徳島県貞光町に集団疎開をしました。国内各地に空襲が始まり、国は将来の兵士を確保するためといって、国民学校（小学校）3年から6年生の子どもたちを疎開させることを、国の政策としたからです。

当時、日本は朝鮮人、中国人をたくさんつれてきて動かさせていました。朝鮮人労働者の子どもである3年生の栄太と6年生の姉の順子は集団疎開に行くことになりました。

貞光町の人たちは温かく迎えてくれました。しかし生活は子どもたちにとって過酷なものでした。早朝から武道の訓練に始まり、勉強、食糧の買い出し、農作業の手伝い、薪拾いと厳しい日課の明け暮れです。それにもまして苦しめられたのは空腹、さびしさ、ノミ、シラミでした。

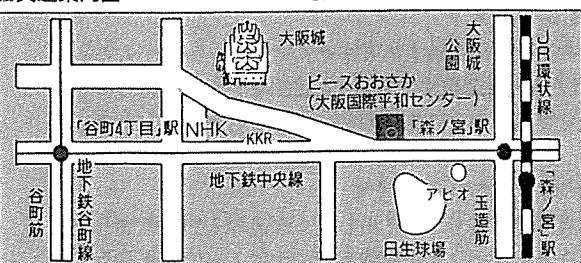
寮母の清子は、寝小便をする子が増えてきたのに心を痛めました。精神的な不安定さや、くみ取り口から赤い手がニューッと出るという噂のため、子どもたちは一人で便所へ行けなくなっていました。先生たちは禁を破って便所に電灯をつけました。その配線が原因なのか1月末の寒い夜、火災が発生したのです。ぐっすり寝込んだ子どもたちは逃げおくれ、男子組29人中16人が焼死するという大惨事となりました。栄太もその一人でした。

弟を亡くした順子は卒業のため大阪に帰ったのですが、卒業式を明日に控えた3月13日夜、大阪の大空襲にみまわれ、翌日の卒業式にはだれ一人として現れませんでした。

敗戦の年の8月、徳島県の子どもたち全員と教職員とがお金を出しあって、真光寺にお地蔵さんを建立しました。「十六地蔵尊」と呼ばれ、その後、命日には関係者が集まり法要が営まれています。

大阪国際平和センターご案内

■ 交通案内図



● JR環状線・地下鉄「森ノ宮」駅下車西へ約5分

■ 開館時間

午前9時30分から午後5時まで
(入館は午後4時30分まで)

■ 入館料

	個人	団体(20人以上)
小・中学生	無 料	
高 校 生	150円	100円
大 人	250円	200円

■ 休館日

- ・月曜日
- ・祝日の翌日
- ・12月28日から翌年1月4日まで
- ・館内整理日(毎月月末)

但し、祝日の翌日及び月末が日曜日にあたるときは、その翌々日の火曜日。



財団法人 大阪国際平和センター

大阪市中央区大阪城2-1 TEL.06-947-7208 FAX.06-943-6080

企画 財団法人 大阪国際平和センター

製作 読売映画社

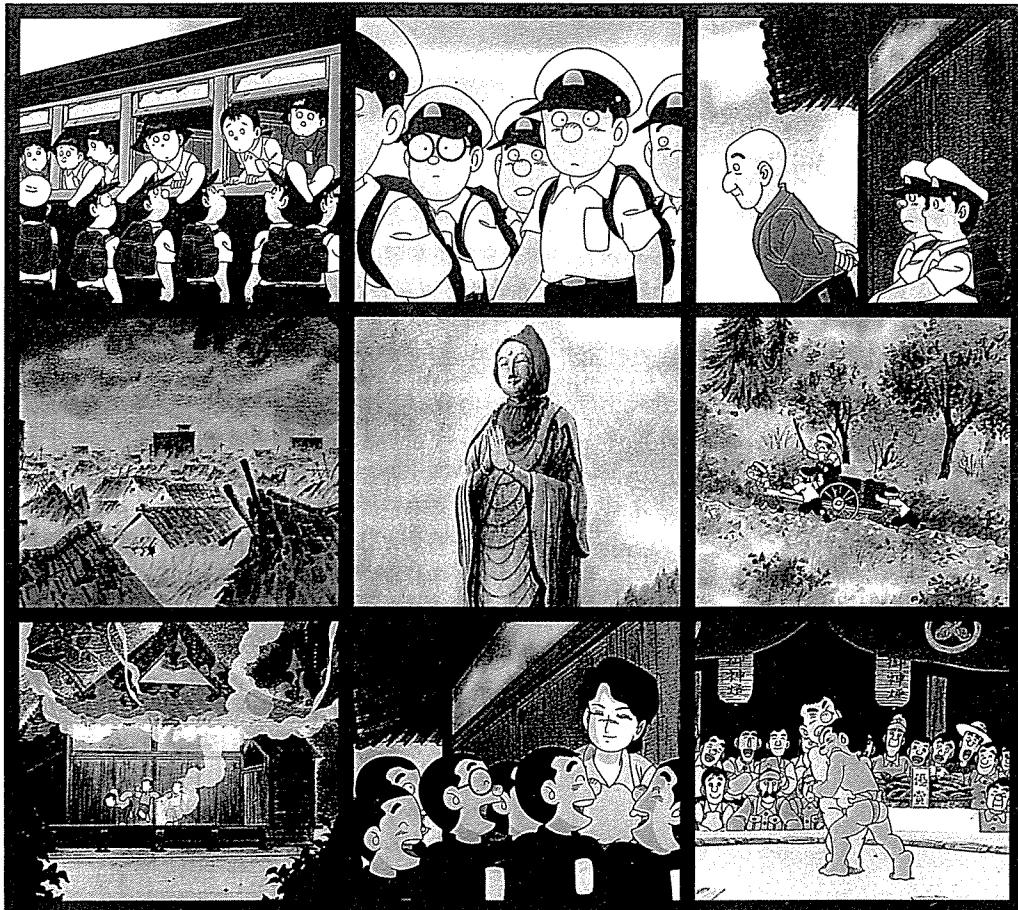
文部省選定

大阪府教育委員会推選

大阪市教育委員会推選

十六地蔵物語

学童疎開
じゅうろくじぞうものがたり



私は真光寺をたずね、ひとり靈前にぬかずいた。耳をふさいでもふさいでもきこえてくる子どもたちの悲鳴と絶叫に身をふるわせた。

原田一美

原田一美 (文研出版刊行)	脚本	監督	プロデューサー
原田一夫	監修	板坂靖彦	中尾憲一
子どもたち	脚本	辻井康一	辛基秀
松田一夫	脚本	細谷秋夫	赤塚康雄
音楽	音楽	木原富雄	福田雅子
音録音	音録音	阪井和夫	本多健吉
動作	動作	宮山博司	（財）大阪国際平和センター理事
仕上げ	仕上げ	田中静恵	天理大学教授
美術	美術	イメージショップ E.Y	青丘文化ホール主宰
動画製作	動画製作	スタジオニード	
作画監督	作画監督	サウンドフォーラム	
脚本	脚本	岩鶴恒義	
監督	監督	栗本有紀子	
プロデューサー	プロデューサー	柳川清	
原田一美 (文研出版刊行)	原田一美 (文研出版刊行)	伝法三千雄	
脚本	脚本	玉鶴恒義	
原田一夫	原田一夫	ふるかわ照	
監修	監修	玉生司郎	
板坂靖彦	板坂靖彦	表淳夫	
辻井康一	辻井康一		
細谷秋夫	細谷秋夫		
木原富雄	木原富雄		
阪井和夫	阪井和夫		
宮山博司	宮山博司		
田中静恵	田中静恵		
イメージショップ E.Y	イメージショップ E.Y		
スタジオニード	スタジオニード		
サウンドフォーラム	サウンドフォーラム		
岩鶴恒義	岩鶴恒義		
栗本有紀子	栗本有紀子		
柳川清	柳川清		
伝法三千雄	伝法三千雄		
玉鶴恒義	玉鶴恒義		
ふるかわ照	ふるかわ照		
玉生司郎	玉生司郎		
表淳夫	表淳夫		

戦争の犠牲になつた
子どもたち



十六地蔵物語

アニメーション カラー作品〈26分30秒〉

鑑賞にあたって

戦争が人々に残した傷はあまりにも深いものです。私たちは被害を受けただけでなく、近隣の国々に大きな被害を与えました。あれから半世紀、今私たちは事実を正しく伝え、判断する目を養い、相手の痛みを我がことのように感じる心を育てなくてはならないと思います。このアニメ作品の子どもたちのたどった姿を通して、戦争について考えてください。

軍国主義教育のもとになった当時の国定教科書



昭和16年発行「ヨイヨドモ」下 国定修身教科書より

日本国民は明治以来富国強兵の国策に一丸となって従ってきました。それは教育によるものといえます。

国定教科書は、国家に忠誠をつくす国民を作り上げるテキストでした。日本を神の国として、世界を尊く使命があると教えています。報道は軍や政府によって統制され、戦争遂行のためにかたなった情報だけが伝えられました。

この戦争を「聖戦」と信じこまされ、虚偽の戦果と「勝利」を信じて、国民は窮屈生活を耐え抜いていました。

学童疎開とは

1944年（昭和19）サイパン島やグアム島が、アメリカ軍によって占領され、長距離戦略爆撃機B29による、日本本土空襲が現実のものとなりました。

この事態に備え政府は、都会の子どもたちを疎開させる決定を行いました。学童疎開には、個人的に疎開する縁故疎開と、学校単位で疎開する集団疎開がありました。

この学童集団疎開は公平ではなく、体の弱い子や障害のある子ははずされ、疎開児童一人当たり十円の負担ができなかった被差別部落の子どもや、朝鮮人の子どもなど貧しい家庭の子どもたちの多くは疎開できず、空襲の危険にさらされました。

大阪の学童8万数千人は西日本各地に集団疎開をしました。両親から離れてのさびしさに枕をぬらす子、空腹に耐えかねて盗みをする子、陰湿ないじめにあう子、どの子も大人たちの起こした戦争の犠牲者です。

子どもたちは、面会日に来てくれる親に会うのを待ちこがれて、つらい悲しい日々を過ごしたのです。



昭和19年8月2日付 政府発行の週報

「桜井のわかれ」=子どもを親から引き離す論理

1944年（昭和19）、米軍の本土空襲が必至という情勢を軍部などはわかっていましたが、日本は「神の国」、戦争に負けるはずがない。また、死ぬ時は「もろとも」と教えられてきた国民に「戦況不利」で子どもを疎開させるということが言えませんでした。

そこで持ち出されたのが楠木正成、正行親子の「別れの思想」でした。

あしかがたかじ
おもひ
ひっし
兵庫での足利尊氏との決戦に赴く正成が桜井の駅（現・島本町）で子・正行に「今度の合戦は天下分け目の戦である。父討ち死の後は、母の教えをよく守り、やがて大きくなったら父の志を継いで忠義をつくし、大君のために朝敵を滅ぼしてくれ。もう11歳になったおまえを河内へ返すのはそのためである。」と心をこめてさとしました。[当時の教科書、初等科国史（上）より]

空襲が迫り来るなか、政府は疎開する学童を楠木正行に位置づけ、「疎開は田舎へ逃げるのではなく、帝国学童の戦闘配置につく姿である」と、親子を鼓舞し、納得させようとしたのです。

（のために作られたのが、左掲の「問答集」です。）

大阪市吾妻校（当時・港区） 立木喜代乃

白い、からけし（学童集団疎開体験作文）

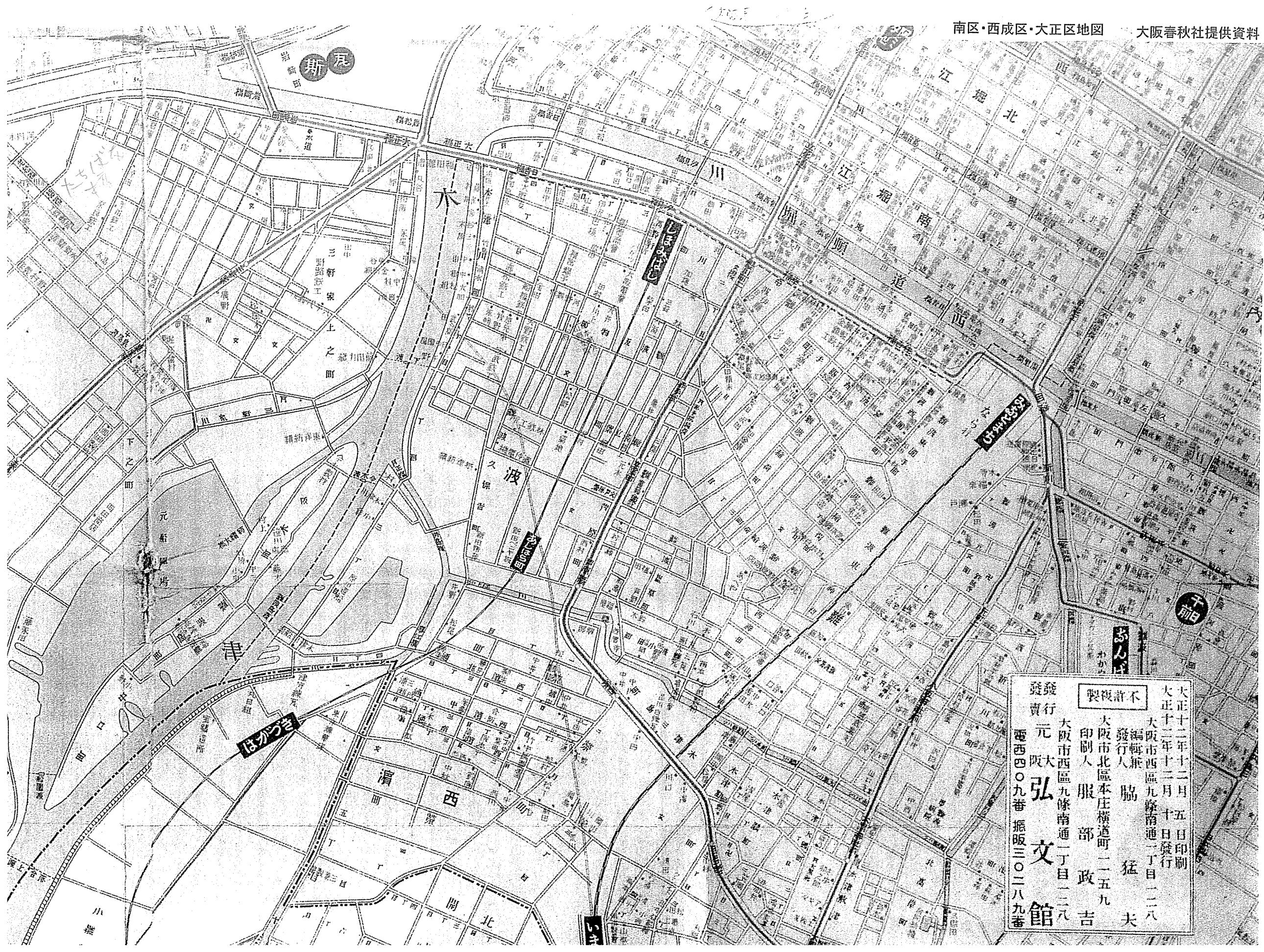
空襲で一家全員亡くなった立木さんは当時のことを次のように証言しています。

『帰りついた大阪駅のプラットホームは暗く灰色で“日の丸の旗”も大勢の出迎えの人波もありませんでした。一人二人と子どもたちは親に連れられて帰って行き、友だちの姿がなくなっていました。私はとうとう最後まで残ってしまいました。その時の心細さは今も忘れる事はありません。誰も迎えにこない私に先生が「心配しなくてもいいよ。先生の家に行きましょうね」と言ってくださいました声に私は泣き出しそうになっていました。

私の疎開の記憶は大阪駅の灰色のホームという景色の中でブツンと糸が切れたようになっています。

空襲で死亡した家族の様子は、そのうちに聞きました。防空壕の後部に焼夷爆弾が落ちて燃え出し人々が前の入口に殺到したところに直撃弾が落下、直前に逃げ出した二人を除いて全員死亡した、ということでした。私の家族はその中に入っていました。妹は空中に飛ばされて近くの畠に頭から足まで体の半分が黒こげになって落ちていた、ということでした。

茶色の封筒に入った骨をもらいましたが、カサコソと少しだけでした。私は封筒のぞいてみて「妹なんかやない。白いからけしみたい」と思ったことでした。母や祖母の遺体はどう行方不明のままだったのです。』



50年

國立競技場に記念碑建立

爆発現場の木津川沿いで当時の模様を語る木内さん。金星丸は右後方の対岸に係留されていた=大阪市大正区で

昭和20年1月 大正区・末津川で輸送船爆発

木津川岸壁で、爆雷を積んだ進水間もない輸送船が爆発、勤労動員された国民学校の生徒ら約二百三十人が死傷していたことが、関西大学の小山仁示教授（日本近代史）の研究、調査で初めて明らかになった。事故は当時、報道禁止となり警察の極秘報告書に記録されただけでひた隠しにされてしまったが、最近になって報告書の内容や事故の目撃者も判明した。戦争の混乱期に隠ぺいされた歴史が半世紀ぶりにベールを脱いだ。

資料は小山局警備害状況を担当保管について軍司令官にあて数次載され起しこし軍徵用〇六八)

教授によると、極秘當時、大阪府警警察課に勤務、空襲の被撃をまとめる仕事をしていた元警察官が、大阪府知事から中部官や大阪憲兵隊長らに報告書で、全文十漢字とカタカナで記している。

船渠（ドック）」で建造された直後の昭和二十年一月十一日正午前、木津川右岸に係留中、大音響とともに爆発した。同船は午後一時半に出港予定で、海軍兵士四人が爆雷を船後尾の爆雷庫におさめる作業をしていたところだったと記されている。船は沈没をまぬかれたが、大きく傾いて大破。同ドックの工場三棟が半壊したほか、周辺民家數十戸が壊され、作業をしていた兵士た

まことに、この船は、死傷者230人を出した。

三十九人が死亡、百八十七人が重軽傷を負った。
死者の中には国民学校の児童一人がおり、負傷者は学徒動員中の滋賀師範の生徒四人、旧制千里山中学校の生徒一人が含まれていた。

「爆発が起きたのは昼食のため船を離れた直後。その時、爆雷を連んでいるのを見ましたが、『危ないことをやっているな』と思ったんです。大きな音と、ものすごい煙で、船は中央部が裂けていました」（木内さん）

勤労動員生徒ら230人死傷



小川仁示教授

料の存在を知った。

メモ 戦前の軍関係事故として知られているのは陸軍禁野火薬庫の爆発事故。昭和十四年三月一日、現在の枚方市にあった陸軍火薬庫が大爆発。周辺の民家約八百戸が全壊し、死者九

小山教授は「隠された事
故の証人が出てきた」とは
貴重だと思う。戦時中、報
道されなかつたことを一つ
ひとつ掘り起こして、正し
い歴史として伝承する事が
これからも必要だらう」と
話している。

余幕式

の枚文宣記念ホール、博物館前に建てる。

隠された戦史 ベル脱ぐ

関大教授 追跡調査

1993月 記事

年成5 尼崎船爆発事件明るみへ

S20年1月の爆雷大爆発で、わずか10分差で生命を捨てずんば（33~36頁記載）

件が8月15日の産経新聞朝刊に「隠された歴史ベル脱出」。大阪民主新聞は「隠された戦争の惨事」と掲載された。長い年月胸底に刻み込まれていて「話せなかつた」「話しても証明するものがなく」信じてもつかなかつた件か

下記の経過をたゞり聞かされた「彼」の席をあけられた。

ヨリ亡くしたあと、体調をくずし、もう残り少い生命と老え、走り書きをかく自分誌を記した。やはり1月の彼事が胸に残り、何とか明るみに去したいと老え図書館通りとなり、やつと関西大学小山教授著の「大阪大空襲」の本に出会い、45~46頁に5行記されているのが目につき感動した。

3月13日 「ピース大阪」にて小山教授にお目にかかり、お話をすることで、気が出てきた。

3月21日 48年前の地図を思い浮べ、現地と思ふ附近を歩き、幾人かの年輩者にもたづねたが判らず、古地図をどこかで調べてからとした。

7月30日 大阪民主新聞社小西記者から小山先生に聞いたからと、会いたいとの連絡。

8月4日 産経新聞社野崎記者も東京から小西記者同様連絡が入る。毎日新聞も同じ。

8月5日 小西記者来訪あり。当時の悲惨な情況実態を話す。ついで処理作業。

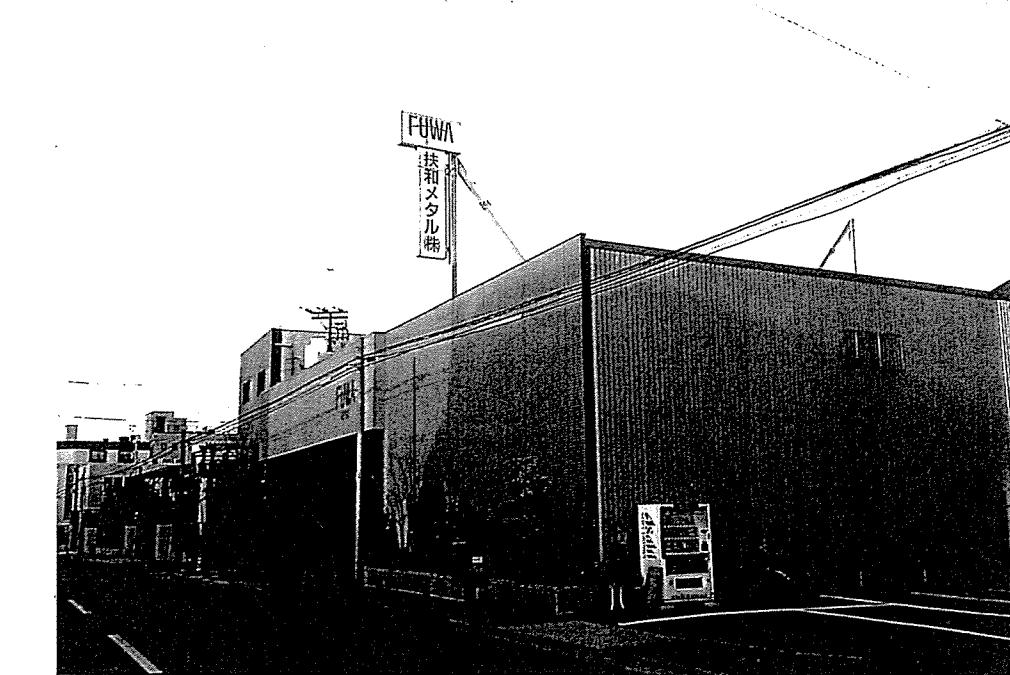
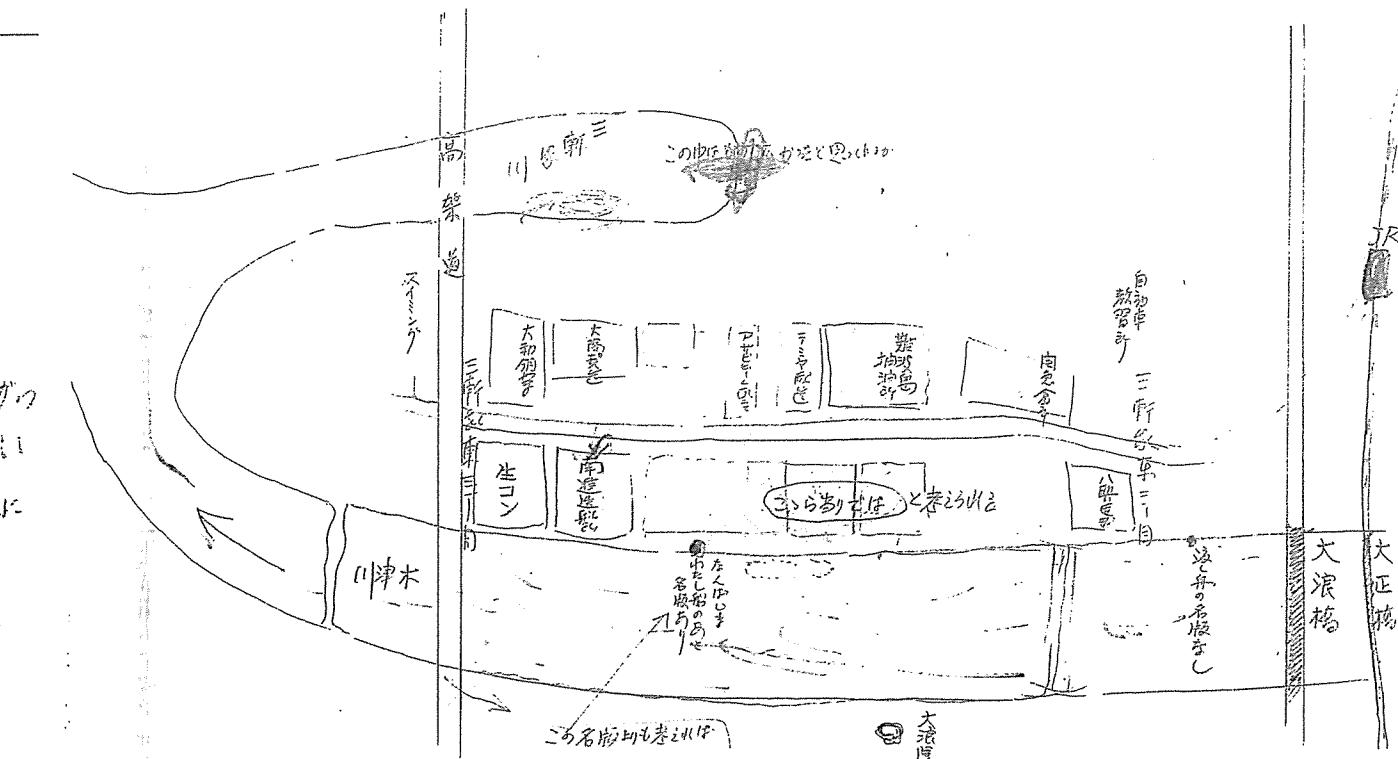
8月7日 小西記者と現地と思うところを歩き、3月に歩いた時と同じ「黒ずんだコンクリート扉の会社」へ入り聞いてみると、常務の方がおり、その人の出征中の事件で帰還して聞きましたとの言葉があった。社長さんの席に座られて、私の中学生の時でしたとの言葉もあり。話の途中で「前田造船所」「難波橋渡船場」等と、思い出す。実り多い一日となり、嬉しくなってきた。

8月9日 野崎記者来訪。小山先生庵へ廻り、先生もご一説する。7月に訪ねた南進造船所へ再びお邪魔した。丁度社長もおり、野崎記者、小山教授に逢つた。これで私、小山教授の本、証言者が揃つた。更に当時極秘とした押印の警察報告書のコピーが小山先生より入手できることで鬼に金棒と言ふ。

8月15日 産経・大阪民報に大きく報じられた。新聞を見たという当時の悲惨の跡を何回も見にゆきましたと言はれる野瀬さんから、 Dank と頂いた。

小山先生と共にその方に逢う機会を得ていたが、数日後ご病気になられた由。彼の席があつたので犠牲になられた方とは安らかになられたと思ふ。また自分も胸のつかみもあった。これは前記の方々のお蔭であり、これから市礼申しあげたい。ただ、當時、おもひで帰宅できなかつた私を心配して川にいた母・妻は既に亡く、おぞぎた。

（15日朝新聞と経済支の二部のコピーは次頁）



金星丸が爆発したとされる付近(2005年4月撮影)

近代紡績工業発祥の地

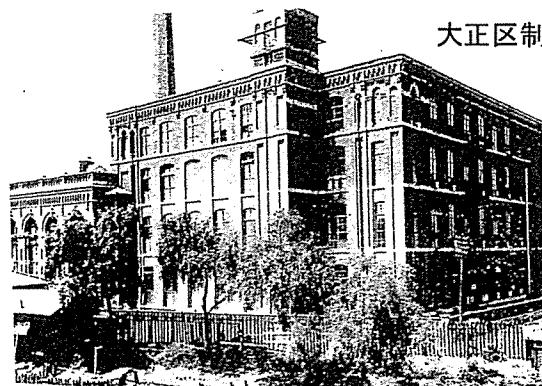
—三軒家公園の記念碑—

東の波沢栄一（一八四一～一九三一）、西の五代友厚（一八三六～八五）といわれる。日本資本主義の開拓者という意味である。ただし、五代が短命であったのに対し、波沢は明治・大正・昭和の三代を生き、あらゆる産業分野の近代企業確立に思う存分腕をふるった。波沢が富豪や大名華族から資金を集め、大阪紡績会社を設立したのは、一八八一年（明治十五）五月のこと。操業を開始したのは、翌八二年七月。場所は大阪の西成郡三軒家村（現、大正区三軒家東）であった。先行の渋谷紡績所（後の堂島紡績所、堂島浜通）が二千錘であったのに比べ、大阪紡績は缪ール紡績機一万五百錘の設備を有していた。大阪紡績の規模の大きさがわかる。

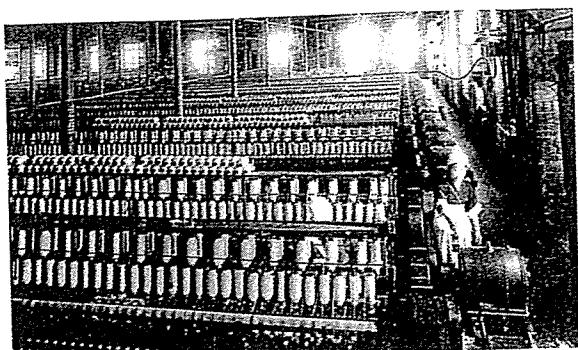
大阪紡績が誕生したことは、日本の近代紡績の本格的なスタートを意味した。現在、三軒家公園の西北隅に「近代紡績工業発祥の地」の碑がある。一九六〇年（昭和三五）、大阪市によって建てられたものである。

大阪紡績を語る場合、忘れてならないのは徹夜業の採用と電灯の使用である。操業開始直後の一八八三年（明治十六）八月から石油ランプによる深夜業を実施し、八六年（明治十九）九月には日本の工場ではじめて電灯を設備した。以後、各地に新設された大紡績工場は、大阪紡績にならって、電灯使用による二十四時間操業を実施した。これによつて、戦前の日本紡績業の特徴である「四時間操業、昼夜二交代一二時間労働の定着が導かれた。おかげで日本紡績業は、後進資本主義の劣位性を二交代制の昼夜操業で補つて、国際競争場裡に進出することが可能となつた。だが、徹夜業という過酷な労働条件は、大量の未成年女性労働者の肉体的精神的磨滅をまねき、「女工哀史」の言葉で示されるような大きな社会問題を生んだ。この意味においても、大正区三軒家の地は日本近代紡績工業発祥の名に価する。

（小山 仁示）



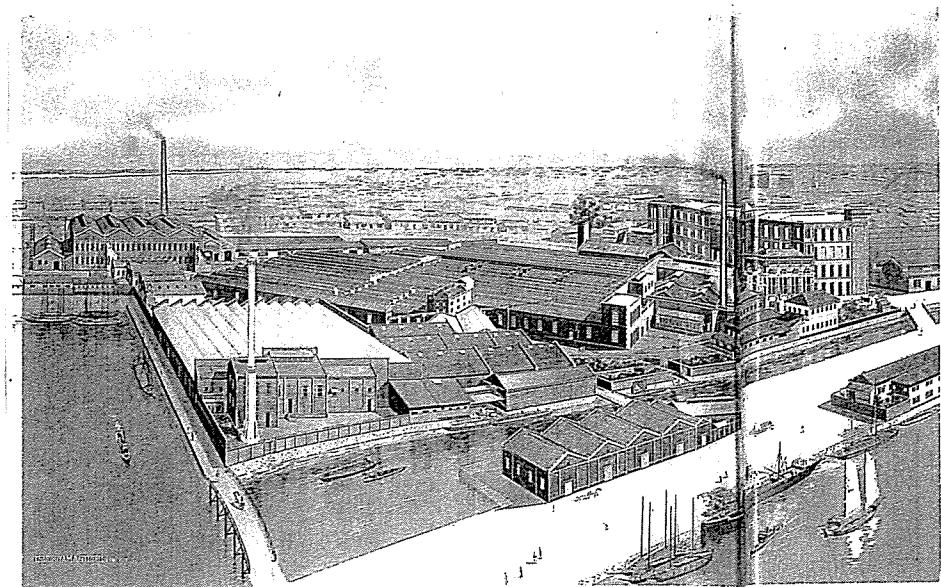
明治末期ごろ



三軒家工場内部



大阪紡績 三軒家工場



『百年史：東洋紡 上』東洋紡績株式会社社史編集室 1986年5月

九保三也子 四十三才

私がこれまでの人生で出逢った数多くのできごとの中でも、空襲の記憶は最も強烈で今もその一駒々々がありありと心に焼きついています。サーチライトの光で夜空にくっきり浮かびあがったB29のキラキラと輝く銀の翼、暗黒の夜空からまるで光の滝のように降りそそいだ焼夷弾の雨、黒焦げになつて死んでいた人達、三十年たつた今も払いのけられぬこれらの映像のことを自分の心中だけに止めないで、次代の人達に知つてもらうことによつて戦争の無意味さや悲惨さを知つてほしいとの願いから、自分の思ひの何分の1も書き表わせないのでをどかしく思いながらも、あえてベンをとりました。

当時私は高等女学校（旧制）の四年生で、現在と同じ福島区の国鉄桜島線（現在還状線）野田駅の近くに住んでいました。戦争が激しくなると私達学生も勉強することは許されず、動員学徒として大正区三軒家にあった工場で航空機の部品作りをしていました。夜ともなると定期便のようにやってくる米機に、空襲警報のサインが不気味に鳴りわたり、道路をへだてた家屋隙間跡にある防空壕へ入つたり出つたりといふ生活でした。初の大坂大空襲のあつた三月十三日の夜も『またか』との思いで壕に入り、早く敵機が通り過ぎて行つてくれるよう願つてました。壕の外から伝わつてくるしつと遠つたあわただしいざわめきに、私と妹は西にもおひただしい花火の滝がぶりついで、燈火管制の暗闇の夜に慣れた目に、そのきらめきの美しさは息をのむばかりでした。遠く南の方がぱっと明るくなり、その明りが大きく大きく広がりを増してゆきました。たくさんの光の筋が地上へ着いたと思われる頃、あちらでもこちらでも火の手があがり、それが次々と火照らされて黒いシルエットを見せてます。それは、なまなましい一ぶくの墨絵を見てつるようでした。三月というのに、煙く気持ちの悪い生ま暖かさを感じさせる風が吹いてきます。火は堂島川から北へは移らなかつたようで、我が家あたりは焼けずにはみました。我が家は、いつ自分達のところまでやつてくるかわからぬ不安に、盛んに燃え上る方を見ながら、なすすべもなく十四日の朝を迎えました。もう燃えるべきものは燃えつくしたのか、朝の光の中で火もおさまつたように見えました。

学徒動員令によつて童需工場へ動員中の私は勝手に休むことはできません。もんべに編入れの防空頭布、肩には非常袋といふ姿で、あやぶむ母の声を後に家を出ました。玉川町四丁目の交叉点で電車に乗ろうと、高架になつてゐる停留所へ上つてみると、南方から放心したような人々の列が、そろそろとこちらへ向つてやつてきます。みんな真黒のすすけた顔で、赤くしょぼしょぼした目をして、手にはこわれた鍋や、焼け焦げたボロのようなものを下げて疲れきつた様子です。声もたてない大勢の人の群、そうです子供の泣き声さえ聞こえない異様さでした。そのありますまに私は身ぶるいがするほどの恐怖を感じました。もう電車も動いていないようです。こんなに多くの人達が焼けさせられたのも、敵の空襲のためなんだ、それを阻止するための航空機作りは一日も休んではならない。と自分の心をふるいたたせて、南に向つて歩きだしました。

堂島川ぞいの中央市場附近までは殆んど変わつたところは見えませんでしたが、橋を渡り川口町あたりに来ますと、様子は一変します。サーキュライトの光で夜空にくっきり浮かびあがつたがなければ自分がどこに立つてゐるか見当もつかぬくらいです。島町一帯はかれきの山の焼野原で東も西も見通せて、市電の軌道がまだちちにチロチロと赤い火が見え、煙と共になんとも云えぬ異臭が鼻をつきます。顔にかかる熱気に私は今まで忘れていた防空頭布をかぶりました。アスファルトの道が熱く柔かで、ゴム底の運動靴を通して足の裏まで熱くなり、一步々々足をひっぱらが激しくなると私達学生も勉強することは許されず、動員学徒として大正区三軒家にあった工場で航空機の部品作りをしていました。夜ともなると定期便のようにやってくる米機に、空襲警報のサインが不気味に鳴りわたり、道路をへだてた家屋隙間跡にある防空壕へ入つたり出つたりといふ生活でした。初の大坂大空襲のあつた三月十三日の夜も『またか』との思いで壕に入り、早く敵機が通り過ぎて行つてくれるよう願つてました。壕の外から伝わつてくるしつと遠つたあわただしいざわめきに、私と妹は西にもおひただしい花火の滝がぶりついで、燈火管制の暗闇の夜に慣れた目に、そのきらめきの美しさは息をのむばかりでした。遠く南の方がぱっと明るくなり、その明りが大きく大きく広がりを増してゆきました。たくさんの光の筋が地上へ着いたと思われる頃、あちらでもこちらでも火の手があがり、それが次々と火照らされて黒いシルエットを見せてます。それは、なまなましい一ぶくの墨絵を見てつるようでした。三月というのに、煙く気持ちの悪い生ま暖かさを感じさせる風が吹いてきます。火は堂島川から北へは移らなかつたようで、我が家あたりは焼けずにはみました。我が家は、いつ自分達のところまでやつてくるかわからぬ不安に、盛んに燃え上る方を見ながら、なすすべもなく十四日の朝を迎えました。もう燃えるべきものは燃えつくしたのか、朝の光の中で火もおさまつたように見えました。

学徒動員令によつて童需工場へ動員中の私は勝手に休むことはできません。もんべに編入れの防空頭布、肩には非常袋といふ姿で、あやぶむ母の声を後に家を出ました。玉川町四丁目の交叉点で電車に乗ろうと、高架になつてゐる停留所へ上つてみると、南方から放心したような人々の列が、そろそろとこちらへ向つてやつてきます。みんな真黒のすすけた顔で、赤くしょぼしょぼした目をして、手にはこわれた鍋や、焼け焦げたボロのようなものを下げて疲れきつた様子です。声もたてない大勢の人の群、そうです子供の泣き声さえ聞こえない異様さでした。そのありますまに私は身ぶるいがするほどの恐怖を感じました。もう電車も動いていないようです。こんなに多くの人達が焼けさせられたのも、敵の空襲のためなんだ、それを阻止するための航空機作りは一日も休んではならない。と自分の心をふるいたたせて、南に向つて歩きだしました。

電線がたれ下り、元の形もわからぬほどに焼けたものが無数に転がつて、つまづき、ふみつけ、ともすれば坐り込みそうになる自分が激しくなると私達学生も勉強することは許されず、動員学徒として大正区三軒家にあった工場で航空機の部品作りをしていました。夜ともなると定期便のようにやってくる米機に、空襲警報のサインが不気味に鳴りわたり、道路をへだてた家屋隙間跡にある防空壕へ入つたり出つたりといふ生活でした。初の大坂大空襲のあつた三月十三日の夜も『またか』との思いで壕に入り、早く敵機が通り過ぎて行つてくれるよう願つてました。壕の外から伝わつてくるしつと遠つたあわただしいざわめきに、私と妹は西にもおひただしい花火の滝がぶりついで、燈火管制の暗闇の夜に慣れた目に、そのきらめきの美しさは息をのむばかりでした。遠く南の方がぱっと明るくなり、その明りが大きく大きく広がりを増してゆきました。たくさんの光の筋が地上へ着いたと思われる頃、あちらでもこちらでも火の手があがり、それが次々と火照らされて黒いシルエットを見せてます。それは、なまなましい一ぶくの墨絵を見てつるようでした。三月というのに、煙く気持ちの悪い生ま暖かさを感じさせる風が吹いてきます。火は堂島川から北へは移らなかつたようで、我が家あたりは焼けずにはみました。我が家は、いつ自分達のところまでやつてくるかわからぬ不安に、盛んに燃え上る方を見ながら、なすすべもなく十四日の朝を迎えました。もう燃えるべきものは燃えつくしたのか、朝の光の中で火もおさまつたように見えました。

学徒動員令によつて童需工場へ動員中の私は勝手に休むことはできません。もんべに編入れの防空頭布、肩には非常袋といふ姿で、あやぶむ母の声を後に家を出ました。玉川町四丁目の交叉点で電車に乗ろうと、高架になつてゐる停留所へ上つてみると、南方から放心したような人々の列が、そろそろとこちらへ向つてやつてきます。みんな真黒のすすけた顔で、赤くしょぼしょぼした目をして、手にはこわれた鍋や、焼け焦げたボロのようなものを下げて疲れきつた様子です。声もたてない大勢の人の群、そうです子供の泣き声さえ聞こえない異様さでした。そのありますまに私は身ぶるいがするほどの恐怖を感じました。もう電車も動いていないようです。こんなに多くの人達が焼けさせられたのも、敵の空襲のためなんだ、それを阻止するための航空機作りは一日も休んではならない。と自分の心をふるいたたせて、南に向つて歩きだしました。

電線がたれ下り、元の形もわからぬほどに焼けたものが無数に転がつて、つまづき、ふみつけ、ともすれば坐り込みそうになる自分が激しくなると私達学生も勉強することは許されず、動員学徒として大正区三軒家にあった工場で航空機の部品作りをしていました。夜ともなると定期便のようにやってくる米機に、空襲警報のサインが不気味に鳴りわたり、道路をへだてた家屋隙間跡にある防空壕へ入つたり出つたりといふ生活でした。初の大坂大空襲のあつた三月十三日の夜も『またか』との思いで壕に入り、早く敵機が通り過ぎて行つてくれるよう願つてました。壕の外から伝わつてくるしつと遠つたあわただしいざわめきに、私と妹は西にもおひただしい花火の滝がぶりついで、燈火管制の暗闇の夜に慣れた目に、そのきらめきの美しさは息をのむばかりでした。遠く南の方がぱっと明るくなり、その明りが大きく大きく広がりを増してゆきました。たくさんの光の筋が地上へ着いたと思われる頃、あちらでもこちらでも火の手があがり、それが次々と火照らされて黒いシルエットを見せてます。それは、なまなましい一ぶくの墨絵を見てつるようでした。三月というのに、煙く気持ちの悪い生ま暖かさを感じさせる風が吹いてきます。火は堂島川から北へは移らなかつたようで、我が家あたりは焼けずにはみました。我が家は、いつ自分達のところまでやつてくるかわからぬ不安に、盛んに燃え上る方を見ながら、なすすべもなく十四日の朝を迎えました。もう燃えるべきものは燃えつくしたのか、朝の光の中で火もおさまつたように見えました。

学徒動員令によつて童需工場へ動員中の私は勝手に休むことはできません。もんべに編入れの防空頭布、肩には非常袋といふ姿で、あやぶむ母の声を後に家を出ました。玉川町四丁目の交叉点で電車に乗ろうと、高架になつてゐる停留所へ上つてみると、南方から放心したような人々の列が、そろそろとこちらへ向つてやつてきます。みんな真黒のすすけた顔で、赤くしょぼしょぼした目をして、手にはこわれた鍋や、焼け焦げたボロのようなものを下げて疲れきつた様子です。声もたてない大勢の人の群、そうです子供の泣き声さえ聞こえない異様さでした。そのありますまに私は身ぶるいがするほどの恐怖を感じました。もう電車も動いていないようです。こんなに多くの人達が焼けさせられたのも、敵の空襲のためなんだ、それを阻止するための航空機作りは一日も休んではならない。と自分の心をふるいたたせて、南に向つて歩きだしました。

電線がたれ下り、元の形もわからぬほどに焼けたものが無数に転がつて、つまづき、ふみつけ、ともすれば坐り込みそうになる自分が激しくなると私達学生も勉強することは許されず、動員学徒として大正区三軒家にあった工場で航空機の部品作りをしていました。夜ともなると定期便のようにやってくる米機に、空襲警報のサインが不気味に鳴りわたり、道路をへだてた家屋隙間跡にある防空壕へ入つたり出つたりといふ生活でした。初の大坂大空襲のあつた三月十三日の夜も『またか』との思いで壕に入り、早く敵機が通り過ぎて行つてくれるよう願つてました。壕の外から伝わつてくるしつと遠つたあわただしいざわめきに、私と妹は西にもおひただしい花火の滝がぶりついで、燈火管制の暗闇の夜に慣れた目に、そのきらめきの美しさは息をのむばかりでした。遠く南の方がぱっと明るくなり、その明りが大きく大きく広がりを増してゆきました。たくさんの光の筋が地上へ着いたと思われる頃、あちらでもこちらでも火の手があがり、それが次々と火照らされて黒いシルエットを見せてます。それは、なまなましい一ぶくの墨絵を見てつるようでした。三月というのに、煙く気持ちの悪い生ま暖かさを感じさせる風が吹いてきます。火は堂島川から北へは移らなかつたようで、我が家あたりは焼けずにはみました。我が家は、いつ自分達のところまでやつてくるかわからぬ不安に、盛んに燃え上る方を見ながら、なすすべもなく十四日の朝を迎えました。もう燃えるべきものは燃えつくしたのか、朝の光の中で火もおさまつたように見えました。

学徒動員令によつて童需工場へ動員中の私は勝手に休むことはできません。もんべに編入れの防空頭布、肩には非常袋といふ姿で、あやぶむ母の声を後に家を出ました。玉川町四丁目の交叉点で電車に乗ろうと、高架になつてゐる停留所へ上つてみると、南方から放心したような人々の列が、そろそろとこちらへ向つてやつてきます。みんな真黒のすすけた顔で、赤くしょぼしょぼした目をして、手にはこわれた鍋や、焼け焦げたボロのようなものを下げて疲れきつた様子です。声もたてない大勢の人の群、そうです子供の泣き声さえ聞こえない異様さでした。そのありますまに私は身ぶるいがするほどの恐怖を感じました。もう電車も動いていないようです。こんなに多くの人達が焼けさせられたのも、敵の空襲のためなんだ、それを阻止するための航空機作りは一日も休んではならない。と自分の心をふるいたたせて、南に向つて歩きだしました。

電線がたれ下り、元の形もわからぬほどに焼けたものが無数に転がつて、つまづき、ふみつけ、ともすれば坐り込みそうになる自分が激しくなると私達学生も勉強することは許されず、動員学徒として大正区三軒家にあった工場で航空機の部品作りをしていました。夜ともなると定期便のようにやってくる米機に、空襲警報のサインが不気味に鳴りわたり、道路をへだてた家屋隙間跡にある防空壕へ入つたり出つたりといふ生活でした。初の大坂大空襲のあつた三月十三日の夜も『またか』との思いで壕に入り、早く敵機が通り過ぎて行つてくれるよう願つてました。壕の外から伝わつてくるしつと遠つたあわただしいざわめきに、私と妹は西にもおひただしい花火の滝がぶりついで、燈火管制の暗闇の夜に慣れた目に、そのきらめきの美しさは息をのむばかりでした。遠く南の方がぱっと明るくなり、その明りが大きく大きく広がりを増してゆきました。たくさんの光の筋が地上へ着いたと思われる頃、あちらでもこちらでも火の手があがり、それが次々と火照らされて黒いシルエットを見せてます。それは、なまなましい一ぶくの墨絵を見てつるようでした。三月というのに、煙く気持ちの悪い生ま暖かさを感じさせる風が吹いてきます。火は堂島川から北へは移らなかつたようで、我が家あたりは焼けずにはみました。我が家は、いつ自分達のところまでやつてくるかわからぬ不安に、盛んに燃え上る方を見ながら、なすすべもなく十四日の朝を迎えました。もう燃えるべきものは燃えつくしたのか、朝の光の中で火もおさまつたように見えました。

学徒動員令によつて童需工場へ動員中の私は勝手に休むことはできません。もんべに編入れの防空頭布、肩には非常袋といふ姿で、あやぶむ母の声を後に家を出ました。玉川町四丁目の交叉点で電車に乗ろうと、高架になつてゐる停留所へ上つてみると、南方から放心したような人々の列が、そろそろとこちらへ向つてやつてきます。みんな真黒のすすけた顔で、赤くしょぼしょぼした目をして、手にはこわれた鍋や、焼け焦げたボロのようなものを下げて疲れきつた様子です。声もたてない大勢の人の群、そうです子供の泣き声さえ聞こえない異様さでした。そのありますまに私は身ぶるいがするほどの恐怖を感じました。もう電車も動いていないようです。こんなに多くの人達が焼けさせられたのも、敵の空襲のためなんだ、それを阻止するための航空機作りは一日も休んではならない。と自分の心をふるいたたせて、南に向つて歩きだしました。

電線がたれ下り、元の形もわからぬほどに焼けたものが無数に転がつて、つまづき、ふみつけ、ともすれば坐り込みそうになる自分が激しくなると私達学生も勉強することは許されず、動員学徒として大正区三軒家にあった工場で航空機の部品作りをしていました。夜ともなると定期便のようにやってくる米機に、空襲警報のサインが不気味に鳴りわたり、道路をへだてた家屋隙間跡にある防空壕へ入つたり出つたりといふ生活でした。初の大坂大空襲のあつた三月十三日の夜も『またか』との思いで壕に入り、早く敵機が通り過ぎて行つてくれるよう願つてました。壕の外から伝わつてくるしつと遠つたあわただしいざわめきに、私と妹は西にもおひただしい花火の滝がぶりついで、燈火管制の暗闇の夜に慣れた目に、そのきらめきの美しさは息をのむばかりでした。遠く南の方がぱっと明るくなり、その明りが大きく大きく広がりを増してゆきました。たくさんの光の筋が地上へ着いたと思われる頃、あちらでもこちらでも火の手があがり、それが次々と火照らされて黒いシルエットを見せてます。それは、なまなましい一ぶくの墨絵を見てつるようでした。三月というのに、煙く気持ちの悪い生ま暖かさを感じさせる風が吹いてきます。火は堂島川から北へは移らなかつたようで、我が家あたりは焼けずにはみました。我が家は、いつ自分達のところまでやつてくるかわからぬ不安に、盛んに燃え上る方を見ながら、なすすべもなく十四日の朝を迎えました。もう燃えるべきものは燃えつくしたのか、朝の光の中で火もおさまつたように見えました。

学徒動員令によつて童需工場へ動員中の私は勝手に休むことはできません。もんべに編入れの防空頭布、肩には非常袋といふ姿で、あやぶむ母の声を後に家を出ました。玉川町四丁目の交叉点で電車に乗ろうと、高架になつてゐる停留所へ上つてみると、南方から放心したような人々の列が、そろそろとこちらへ向つてやつてきます。みんな真黒のすすけた顔で、赤くしょぼしょぼした目をして、手にはこわれた鍋や、焼け焦げたボロのようなものを下げて疲れきつた様子です。声もたてない大勢の人の群、そうです子供の泣き声さえ聞こえない異様さでした。そのありますまに私は身ぶるいがするほどの恐怖を感じました。もう電車も動いていないようです。こんなに多くの人達が焼けさせられたのも、敵の空襲のためなんだ、それを阻止するための航空機作りは一日も休んではならない。と自分の心をふるいたたせて、南に向つて歩きだしました。

電線がたれ下り、元の形もわからぬほどに焼けたものが無数に転がつて、つまづき、ふみつけ、ともすれば坐り込みそうになる自分が激しくなると私達学生も勉強することは許されず、動員学徒として大正区三軒家にあった工場で航空機の部品作りをしていました。夜ともなると定期便のようにやってくる米機に、空襲警報のサインが不気味に鳴りわたり、道路をへだてた家屋隙間跡にある防空壕へ入つたり出つたりといふ生活でした。初の大坂大空襲のあつた三月十三日の夜も『またか』との思いで壕に入り、早く敵機が通り過ぎて行つてくれるよう願つてました。壕の外から伝わつてくるしつと遠つたあわただしいざわめきに、私と妹は西にもおひだ



造兵廠香里製作所第2工場にて

二、勤勞奉仕、挺身隊、動員

19期から勤労奉仕が始まったのは前にも書いたが、住友製鋼でジュラルミンの選別作業、寒い工場で一生懸命だった。(20期) 21期も森下仁丹で、やはりトイレに行くのも辛抱して競争で包製作業にはけんだ。そして勤員令。昭和19年、桜島の日立造船、伝法町の帝国綿維、東洋製缶、小鈴バルブ、秋田木材等々。生徒達は、何の疑問もなく学問、勉強を放棄した。否、たとえ疑問があっても、そんな事態となる時代ではなかった。お国のために勝つまではと目標に向かって一致協力した。特に21期と22期の一部は東洋製缶から先に勤員して、23期のいる香里の火薬工場へ突った。山の中の工場で、全寮制であった。

大阪空襲で空の真赤なのを見て、なすすべなく、皆泣いた。ここで兄の出征でも半日の休暇しか貰えないし、工場の出入りも検査か
きびしかった。

銃撃もあった。人間より爆弾の方が大切だったので倉庫に入れた。
60kg入りの箱を五段積む、大変な力持ちだった。
夜勤もありその場合、昼食はなく、おなかが減って困った。たまに帰宅すると必ず翌日は下痢、原因はわかっているので医務室は食べすぎの下痢止め大はやりだったという。
その時の全寮生活の苦しみを分かち合った生徒達は、今に至るもつき合っているという。生死を共にした者のみの知る友情か……。
22期の井上製缶ではプレス機械をあつかい指を落とした人也有ったという。

勤労動員の入所日

昭和19年度

- 6.10. 5 秋 (20) 小鈴航空機工業 KK
 7. 5. 5 春 (20) 大洋飛行機工業 KK
 " 5 夏 (20) 日立造船 KK 桜島工場
 " 5 冬 (20) 帝国綾維 KK 大阪工場
 " 5 百合 (20) 小鈴航空機工業 KK
 " 4 金組 (21) 東洋製罐 KK 三軒家航空機工場
 10.25. 3 夏 (22) 北新化学工業 KK
 " 3 秋 (22) 秋木工業 KK 大阪工場
 " 3 百合 (22) ハヤト製造所
 11. 2. 3 冬 (22) 中部縫製加工 KK
 11. 8. 3 春 (22) 井上製罐 KK

昭和20年度

- 4.25. 4春・百合 (22) 鐘ヶ渕機械KK大阪工場
 5. 1. 4夏・秋・冬 (22) " "
 5. 5. 3全組 (23) 造兵廠香里製作所第2工場
 " 専4 (21卒) "
 5.10. 専5 (20卒) 帝国繊維KK大阪工場
 (6.1.の空襲で工場焼失)
 5.22. 2春秋 (24) 小鈴航空機工業KK
 7. 1. 専5 (20卒) 造兵廠香里製作所第2工場

生徒被害状況

	死亡	全焼	半焼	倒壊
1年	1	28		
2年		42		
3年	1	35		1
4年		38		
5年		34	1	1
臨教		10		
計	2	187	1	2

(20. 3. 19. の教務日誌による)

『[大阪府立泉尾高等学校]創立 50 周年記念誌』

大阪府立泉尾高等学校 創立 50 周年記念誌編集委員会 1971 年

あの屋下がり、大阪市港区
保山渡船場。「海櫻」（
定員80人）に乗つた。全
て3歳の船上には、会社員
の女性など乗客一人。
か心地よい。約2分で対岸
花区桜島へ着いた。到着を
ていたのは、20人以上の
近くにユニー・バーサル・ス
オ・ジャパン（U.S.J.）が
ため外国人もチラホラ。一
乗つていると外国航路の電
しきも、乗員3人が、運転
じなく、安全確保にもじら
目を配る。みなさん市役員
者も「ありがとうございます」とだ
なんか、和むなあ。
ええ氣持ち。これで、お金

をしたい。先立つものがない私は、豪華客船なんじ夢のまた夢。でも、はかない船旅の夢を実現させてくれるものが、大阪市にあります。なんと無料の公営渡し船。日本の大都市では大阪だけ、とか。このうれしいサービス、なんである? (井尻義)

卷之三

橋の代わり 商都氣質反映?

あー、たまにほりの船旅をしたい。先立つのがたい私には豪華客船なんて夢のまた夢。でも、ほかない船旅の夢を実現させてくれるのが、大阪市にはあるんです。なんと無料の公営渡し船。日本の大都市では大阪だけ、とか。このうれしいサービス、なんである? (井元茂)

の渡し船
わんざいいの? なんぞ?
実は、渡し船は法律上は「道
路」。旧道路法で「道路の一
部」となった1920年以来
無料なんです。

歴史を持つが
営、有料が基
一部か、32年
當になつた。35
31万所、年間利
を超えたとか。

一大阪の渡し

渡し船は昔は東京でも大活躍した。でも、64年、隅田川で最後の「伍の渡し」が江戸期以来の幕を開じて、東京では消えていた。道路統計年報03年版をみると、政令指定都市で道路としての渡しがあるのは大阪市だけ。